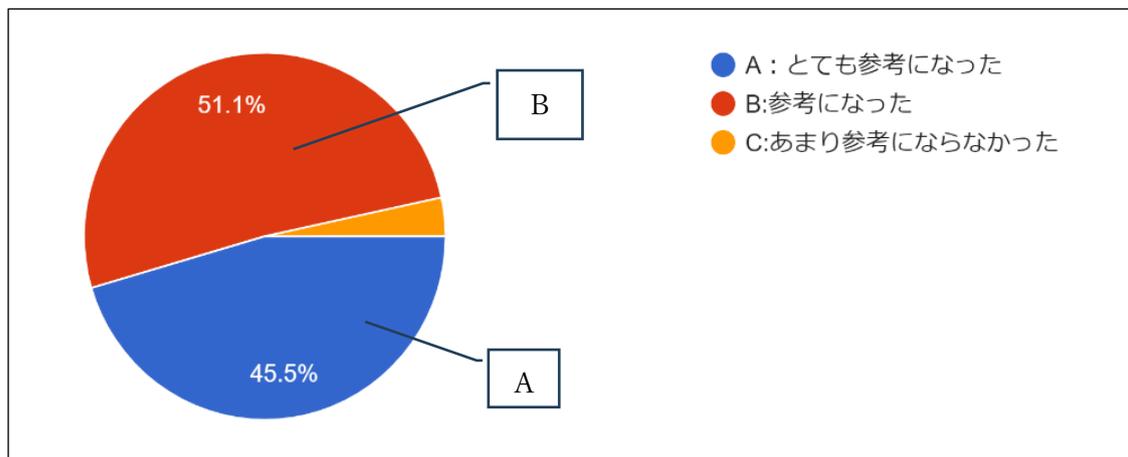


令和5年度 夏季教頭研修会 アンケート結果のお知らせ

○ 所属地区別回答数（総回答数352件）

桑名市 桑名郡	27	鈴鹿市	34	松阪市	24	志摩市	10
いなべ市 員弁郡	21	亀山市	12	多気郡	14	伊賀市	20
四日市市 (小)	33	津市北	10	伊勢市	18	名張市	16
四日市市 (中)	10	津市中	23	度会郡	17	紀北	13
三重郡	8	津市南	16	鳥羽市	8	紀南	18

○ 第1部の講演について



○ 第1部の講演において、印象に残った内容、今後の実践に役立てたい内容について

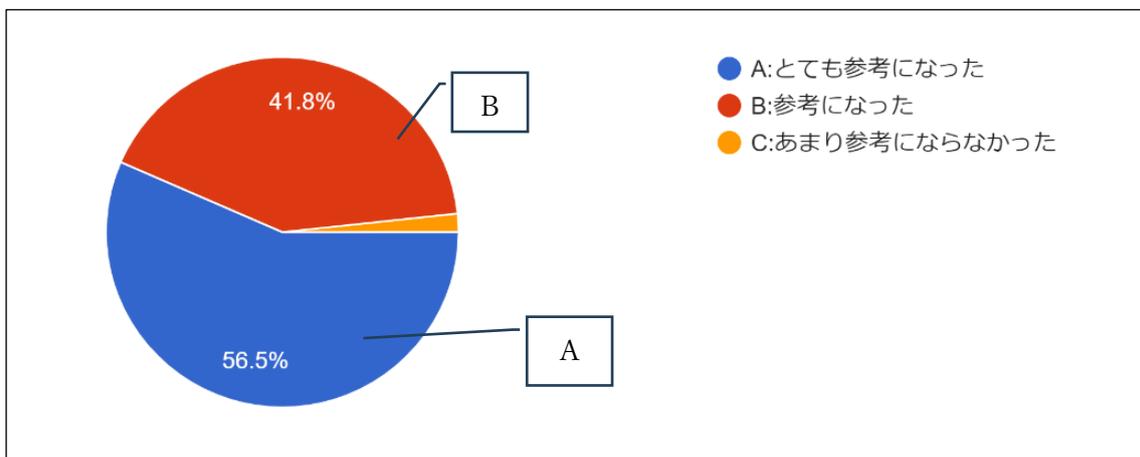
1	GIGA スクール構想により学校を取り巻く環境が急速に変化している。そのことに対応していくために多くの知識を身につけていきたい。
2	県・国の示す指針や施策を把握、理解し、適切に職場で指導・助言できるよう、自分自身がアップデートすることの大切さを感じた。
3	「生成 AI」が今後学校現場にどのような影響を及ぼすのかが、大変きになるところである。文科省からのガイドラインの内容も確認しながら、その有効活用や対応に備えたい。
4	主権者教育が印象に残った。小中学校においては少し早いように思っていたが、子ども一人ひとりに社会を変える力があり自分の住んでいる町の課題を自分事として捉え、解決策を仲間と協力して考える力を育成する必要性を感じた。
5	ウエルビーイングについて、今後重要になってくると思うので、働き方改革と関連させて、やりがいと労働時間のバランスも考えた職場環境を構築していきたい。
6	主権者教育は、社会科だけでなく他教科でも実践可能であることがわかった。

7	主権者教育やウエルビーイングについて、何となく理解していたつもりだったが、今回実践例を提示してもらい、とてもわかりやすく、自分の学校でも取り組めそうだと感じた。
8	ICT を活用し、個別最適な学び・協働的な学びを実現する取り組みを進めていくことが今後の学校に求められている大きな課題だと思った
9	「子どもが先生の敷いたレールの上を走るような授業をしてはいけない。」という言葉が心に残った。そのためにも、「主体的で対話的な深い学び」の実現を目指した授業づくりが大切だと思った。
10	効果的な ICT の活用の仕方や実践内容、ジグソー法、気になる新聞記事等の具体的な話が印象に残った。職場の若い先生たちにも、ぜひ還流したい。
11	教師自身も、個別最適な学び、協働的な学びで高め合う職場であるよう、教職員の意識改革を進めていきたいと思った。
12	「気になる新聞記事から」のお話で、ICT を活用して学習を進める一方で、児童生徒の端末頼りになっている現状をどのようにしていくのかという内容が印象に残りました。生成 AI のことも気になります。今後の取り組み方を検討していかなければならないと思いました。
13	個別最適・協働的な学びで、ティーチングマシーンを例に挙げて、「子どもたちの名前が出てこない研修会」が行われたとおっしゃったことは、ICT を活用していく上で陥りやすいことだと感じた。また ICT 活用が孤立した学びにならないよう目的を職員間、職員と児童間で共有することを大切にしていきたいと思った。

【その他】

- ・ 谷本先生には、授業・実践的な話をしていただきたかった。もったいなかったと思いました。
- ・ 前段階の話が長すぎる。役立てたいことはありません。
- ・ 全体的に内容が盛りだくさん過ぎて、理解がついていかなかった。
- ・ 資料の見えにくさが際立って、残念でした。
- ・ 教科担任制について、話が聴けると期待していたのに省略されて残念でした。
- ・ 内容が多岐に至っており、結局のところどんなお話だったのかよくわかりませんでした。教頭の立場から先生方に授業実践研修せよということでしょうか。

○ 第2部の講演について



○ 第2部の講演において、印象に残った内容、今後の実践に役立てたい内容について

1	9月から新たに外国籍の児童を迎えるにあたり、とても参考になりました。保護者や児童の不安を理解しながら、他の児童が多様性を学ぶ機会として大切にしたいと思いました。
2	外国につながる子どもへの指導支援を行う中で、学校のシステムを構築していくことが重要であると感じた。指導支援にあたっている教職員にばかり責任や負担を感じさせず、仲間作り、居場所づくりをベースにして学校全体で取り組んでいくことを大切にしたい。
3	法的な部分も含めて、子どもたちにとってのメリットを考えたことがなく、自分の中でもどこか「大変だな。」と思っていたのだとハッとさせられました。子どもの気持ちや保護者の思いをもっと聞ける学校にしていきたいです。
4	外国につながる児童生徒の抱える問題として、親とのコミュニケーションをとるための言語が確立されていなくて、うまくコミュニケーションをとることができないという現実を知り、その課題と自分はどのように向き合っていけばよいのか考えさせられました。
5	全校児童の半数が外国につながる児童と聞いて驚きました。その中で大変さ以上に良いことがあるとおっしゃっていた先生の言葉が印象的です。様々な国の人と一緒に過ごすことが一番の多文化共生教育だと思います。外国籍の児童がいない学校は進めることが難しいですが、だからこそ、しっかり取り組まなければならないと思いました。
6	スケールで見えない困り感があるということに共感した。スケールとあわせて、生活の様子に目をやり、どれだけ日本語と触れる時間や機会があるのかなど、多面的に評価することが大切だと感じた。
7	外国につながる子どもたちが多く在籍していることは、子どもたちにとってメリットばかり、という考え方がとても素敵で感動しました。外国人保護者への対応等課題はたくさんある中、子ども第一の視点を大切にされていることに、ハッとさせられました。ありがとうございました。
8	多様性を学ぶには、価値観の違う他者との共同が不可欠なので、外国にルーツを持つ転入生はウエルカムだという認識を大切にしたい。
9	「共生」ということについて、改めて考えさせられました。学校でやれること、他機関と連携すること、何よりも職員の受け止め方が大切だと思いました。
10	外国につながる子どもたちが在籍していることのメリットという捉えを、学校全体でまずはしていきたい。多様な価値観を認め合うことができ、他者との共生について、常に考えることができる子どもたちに育てることができたら、ワクワクしかない。
11	「誰ひとり、取り残さない！」そんな先生の強い思いがものすごい勢いで伝わってきました。本当にありがとうございました。
12	外国につながる児童への対応について、津市における取組を具体的に示してもらい、参考になる部分がたくさんあった。周りの児童との関わりも大切にすることを学校として進めていきたい。

【その他】

- ・ ZOOM でよい。

○ 今後、希望する講演（研修）内容について

【内容について】

- ・ 今日的な教育課題（県・国の動向）★★★★★★★★★★（11）
- ・ 特別支援★★★★★★★★★★（12）
- ・ 架け橋プログラム（1）
- ・ 情報管理システム・ICT関係★★★★★★★★★★（9）
- ・ 地域連携・小中連携★★（2）
- ・ 管理職のマネジメント・人材育成★★★★★★★★★★（10）
- ・ 学力向上（1）
- ・ いじめ・不登校★★★★★★★★★★（10）
- ・ 働き方改革・メンタルヘルス★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★
(24)
- ・ 人権教育★★★★★（5）
- ・ 危機管理★★★★★（6）
- ・ 児童虐待（1）
- ・ 保護者対応★★★★★★★★★★（10）

【講演者について】

- ・ 田中博史（筑波大付属小学校）
- ・ 工藤勇一
- ・ 石井順二（学び合い）★★（2）
- ・ 佐藤学（学び合い）
- ・ 教員以外の先生方の講演

【その他】

- ・ 会場までの往復に時間がかかり、その時間を校務にあてたい。ZOOM 開催をお願いします。

○ 夏季教頭研修会の申し送り事項

- ・ 来年度日程 令和6年7月12日（金） 総文大ホール
- ・ 第1部講師 県教育委員会小中学校教育課 に依頼済み（仮）
- ・ 第2部講師 未定
- ・ 演題（紙） 今年度のように、調査部で手配。（理事の学校等）
- ・ 夏季研修会表示 看板ではなく、パソコンで写す形。
- ・ 講演会質疑 質問者には、きちんと立ってマイクを渡して話してもらう。
- ・ 講演会記録 第1部と第2部に分けて記録。その後、広報用文章を作成。最終、調査部で1つの文章にまとめる。（調査部として出す）
- ・ お茶 お茶は演題上と控室とで一人2本用意。お茶菓子も用意。
- ・ 座席表示 シートの木の部分には、直接テープなどで貼らない。